愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2022年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	コミュニケーション技能		
担当者(Instructors)	吉村 美路	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

この授業では、「コミュニケーション能力」がどんな能力なのか、講義での学びで見定めた上で、実践の場(日常)で自身と向き合いながら勉強に励んでもらいます。 たとえば、皆さんは知っている人に会ったら挨拶をします。では、なぜ挨拶をするのでしょう?「それはあたりまえだから」と思うかもしれませんが、知っている人でも挨拶しづらかったり、したくない時はありませんか?そんな時、「なぜ自分はそうなったのか?」と疑問に思って自分をきちんと把握していく事、それがコミュニケーション能力を高める一歩になります。 コロナ禍によりリモート授業に切り替わった際は、オンデマンド形式にて実施します。

■授業形態・授業の方法(Class form)		
授業形態(Class form)	演習	
授業の方法(Class method)	 授業は演習を中心に必要に応じてグループワークも取り入れ、受講者同士で協力しながら学習を進めます。 	

■各回のテ	■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分 (Media)	
第1回	オリエンテーション〜授業スケジュー ル・講義概要〜	授業計画・成績評価の方法・学習の目的と目標・習得すべきスキル などについて解説します。		
第2回	コミュニケーションの基本概念 ~コミュニケーション「はじめの一歩」:まずは自分を理解しよう~	1.自己を知りたい気持ち、2.自己理解の手段と問題点		
第3回	対人魅力と人間関係 ~なぜあの人は印象が良いの?:本能と理性の視点から~	1.印象形成、2.本能で感じる好き嫌い、3.理性でとらえる印象		
第4回	言語コミュニケーション〜言葉で伝わること伝わらないこと:言葉のメリットデメリット〜	1. 本音と建前、2. 言葉だけでどこまで伝わるか、3. 嘘と秘密		
第5回	非言語コミュニケーション 〜ジェス チャーと立ち位置:しぐさで相手の気 持ちがわかるのか?〜	1. 表情の力、2. 空間心理、3. ペーシング技術		
第6回	自己開示のコミュニケーション ~あり のままの自分はどこにいますか?:自 己分析してみよう~	1. 心の開放度、2. 自己開示できる人の人間関係、3. 自尊心と自己開示		
第7回	自己呈示のコミュニケーション 〜あな たは自分をどう見せているか:見せた い自分に隠れた自分〜	1. 見せたい自分、2. 隠したい自分、3. セルフハンディキャッピング		
第8回	人を動かすコミュニケーション ~説得 の心理学的なメカニズム:人が説得さ れる条件~	1. 説得の条件、2. バンドワゴン効果、3. ゲーミフィケーション		
第9回	葛藤のコミュニケーション 〜フグは食 いたし命は惜しい:葛藤に対する自己 防衛〜	1. 葛藤の4 つの基本類型、2. 防衛規制、3. コンフリクト		
第10回	組織コミュニケーション 〜職業が個人 に与える影響:地位は人を作るか?〜	1. アイデンティティの構築、2. 組織心理、3. バーンアウト		
第11回	コミュニケーションと社会 I (民族・階級) ~社会が個人に与える影響:それは日本に生まれたからですか?~	1.目には見えない文化、2.異文化コミュニケーション、3.階級		

第12回	コミュニケーションと社会 II (ジェンダー・世代) 〜ジェンダー・世代間 ギャップ: なぜ部下の理解に苦しむのか〜	1. ジェンダーによる影響、2. 世代間ギャップ、3. 共通点	
第13回	アサーションスキル 〜自分の思考の 癖を知ろう:あなたの思考の癖〜	1. 交流分析、2. ストロークの法則、3. 心理ゲーム	
第14回	アサーションスキル II 〜自分の性格の 型を知ろう:あなたはどんな交流癖を 持っていますか?〜	1. アサーション、2. 透明性錯覚、3. 思い込みについて	
第15回	これまでの総復習・期末レポート	これまでの総復習・期末レポート	

■授業時間外学習(予習・復習)の内容(Preparation/review details)

【事前学習】次回授業のテーマについて、関連する自己の体験や印象的な事例をピックアップしておくこと(2時間程度)。 【事後学習】講義で学んだことを再確認の上、自分なりに再考すること。課題が与えられたときは、その日のうちに解決するよう心がけてください(2時間程度)。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

講義内容に沿った課題プリントを講義の前に配布する。解答は講義の中で提示する。 講義の最後に行う小レポートで挙がった質問に関しては、次回講義の冒頭で解説する。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)			
区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)	
思考力・判断力・表現力 ◆ 2019全学共通DP2		現実世界で自身が体験する様々な出来事について、学問的視点から考察・表現する 事ができる。現象を客観的にとらえ、自身や他者が置かれた状況や心の動きについ て理解し、課題解決に向けて行動することができる。	

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written	実技試験(Practical	レポート試験(Report	授業内試験 (in-	その他(Other)
exam)	exam)	exam)	class exam)	
45%	0%	0%	35%	20%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

授業の終わりにその日の学びについて、小レポートを実施します。

■テキスト(Textbooks)			
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)	
1	教科書として購入する必要はありません。必要に応じ、授業の中でプリントを配布 します。		
2			
3			
4			
5			

■参考図書(references books)			
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)	
1	松井 豊、上瀬由美子『社会と人間関係の心理学』岩波書店		
2	深田博己『インターパーソナルコミュニケーション』北大路書房		
3			
4			
5			